

---

# 名も無い物語 3

春功

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

名も無い物語3

### 【Nコード】

N4089B

### 【作者名】

春功

### 【あらすじ】

人の人生は、辛い思い出ばかりではない。それと同時に素晴らしい思い出もある。たった一人の思いを綴った物語第三弾。今度は、悲しみではなく愛？一人の男は本当に恋をした。開幕！

「君が、好きだ」

なんて、恥ずかしくていえない。

いつも、すれ違う姿を見てるだけで。

ただ、それだけで胸が高鳴ってしまう。

君の笑っている顔に、揺れる繊細な黒髪。

それが、僕の目を釘付けにして止まない…。

でもきつと、彼女は僕の事なんて見てないんだ。

だって僕には、何も無いから。

誇れるところなんて何も無いから。

だからきつと告白してもだめなんだ。

彼女の幸せを考えるからこそ、僕ではだめなんだ。

だからこそ、この気持ちは心の奥底に閉まっておこう。

いつか、必ず自分を誇れるようになったとき、必ず。

「おはよう、宏介君」

それでも…

おはよう、なんて卑怯じゃないか。

そんなふうに声をかけられたら、僕だって…

本当は、好きで好きで、仕方がないのに。

そんな笑顔で言われたら、君に、好きだ、と言いたいじゃないか…

この気持ちが抑えられ無いじゃないか！

「君が、好きだ」

だから、僕はそう言った。

でも、その言葉を言ったのは、彼女がもう先に行ってしまった後で。

ただ、その言葉だけが、彼女を追いかけられず、空しく静かに消えていってしまった…

どうしたらいいんだ…

僕は告白して嫌われたくない。

でも、好きなんだ。

君のことがこんなにも…

前にこんな本を読んだことがある。

その本の主人公は、人を愛する事ができてこそ、人に愛されるのだ、とかそんな事を言っていた。

はっきり言って、クサイ言葉だと思う。

クーイとかいう名の主人公がそう言っていた。

馬鹿にされるほどの戯れ言だと分かってる。

でも願わくば、自分もそうなりたいと思う。

クサクったって、恥ずかしくったって、それほど僕は愛しているのだから。

それで、彼女が僕を見てくれるのなら、なんだってできるよ。

冷たい風が、僕の体を覆った。

でも、言えないんだよ。

なぜなら、

彼女には、もう愛しい人が居るんだから。

それを分かっているけど、僕は諦められなかったんだ。

未練タラタラだよな。

もし、告白しても、可能性がないのだとしたら。

これだけはさせて下さい。

君を好きでいさせて下さい。

僕にはきつと、そうした方がいいと思うから。

だから、幸せにずっと笑い続けてほしい。それだけで僕はうれしいんだ。

だけど、覚えていてほしいんだ。

僕は君にいつか必ず、告白するから。

惚れられるぐらい、良い男になってさ。

だから、待ってるよ。

必ず、強くなるから。

それまで楽しみにしてやがね。

彼女がいない中で、僕は自分に言い聞かせるように宣言した。

その中で、自分の心が熱くなるのを感じていた…

(後書き)

苦しみ、辛さ、愛しさを経て、この人間は次に何を思ふのか？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4089b/>

---

名も無い物語 3

2011年10月3日19時02分発行